

## 令和5年度 第1回 帯広市地域自立支援協議会 差別解消部会 議事録【概要版】

日時：令和5年7月18日（火）18:30～19:52

場所：ソネビル 6階 講習会室

出席委員（24名）

事務局（8名）

帯広市 5名

十勝障がい者総合相談支援センター 3名

### 1 開会

### 2 挨拶 帯広市市民福祉部長

### 3 趣旨説明

自己紹介については、資料2座席表を各自確認頂くこととした。

事務局より議事に入る前に会議趣旨について資料3, 4に基づき説明があった。

## 4 議 事

### （1）帯広市より報告

事務局より、令和4年度の相談事例はなかったことが報告された。また、障害者差別解消法の改正により令和6年4月1日から民間事業者にも義務化される、合理的配慮の提供について、資料5、資料6に基づき説明があり、資料7障害者差別解消推進事例集を更新したことが報告された。

### （2）当事者発表

「私たちが今伝えたい事」～合理的配慮の提供と差別の解消に向けて～

身体、精神、知的、難病の当事者から、合理的配慮が必要だと感じることや、差別の解消に向けての自身の体験や思いを発表いただいた。

発表者の声として主なものは、次のとおり。

・重度訪問介護サービスを使いながら働くことができない、次世代の子供たちにもヘルパーを使えば可能性は無限大ということを伝えていける世の中、帯広市を一緒に目指したい。

（身体）

・色々な色を持っている人がいるということを知って見て下さい。（身体）

・物件を探していた際、精神科に通院しているという理由だけで6軒断られた。（精神）

・障害を持っている方の障害という部分ではなく、その人の一番輝いているところに目を向ければ、差別や偏見もなくなっていくと思う。（精神）

・定期的な通院などができるよう、安心して休暇を取得できる環境が必要。（難病）

・努力している人をバカにすることは、差別だと思う。（知的）

・人と自分が違っていても、できることと、できないことがあっても、それを認め合うこと・助け合うことで、差別は減っていくと思う。（知的）

### (3) グループワーク

各グループに(2)の発表者が加わり、自己紹介、(2)の感想、日々の業務の中で気になる事等について、意見交換を行った。

各グループで出た主な意見は次のとおり。

- ・言葉は凶器にもなる。一言が差別になっていないか、気をつけたい。
- ・色々な方と接する機会と経験が必要なのではないか。
- ・お互いに、違うところを見つけるよりも、自分も許容し、相手にも許容してもらうことが大事だと思う。
- ・皆(当事者)の意見を生の声で聞くことができ、色々考えるきっかけとなった。
- ・皆、明るく自信をもって発信していたのが印象的だった。  
これまで積み重ねてきたものの自信を感じた。
- ・障害者とのつながりが少なく、普通に接する世の中にはまだ時間がかかる。
- ・資料では顔が見えない、当事者の顔が見える会を開くことは大事。

## 5 閉会

事務局より、実務者会議の開催を必要とする相談事例があった場合の関係構成員の協力を依頼し、閉会。